

15日以降も高温が続く予報、ワキの発生に注意

- 11日から連日30℃前後の高温が続き、断続的に降雨がありますが、いまだ梅雨入り宣言がありません。15日から一週間も高温が続く予報です。気温が高く、晴天が続くと土壌が異常還元状態(ワキ)になりやすくイネの生育に影響するので、ワキや藻類の発生が見られる水田では、一度水交換を行い、その後浅水管理(水深2～3cm)とし、昼間止水・夜間注水で分げつを促してください。

日付	過去の実況										1週目の予報(日別)										2週目の予報(5日間平均)				
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	(19～23日)	(20～24日)	(21～25日)	(22～26日)	(23～27日)
甲府 (最高気温)	27.6	28.4	29.6	25.6	28.8	31.0	32.2	当日	33	31	32	31	29	28	30	29	29	29	29	29					
甲府 (最低気温)	18.6	18.1	16.2	18.4	16.9	19.9	20.5	当日	19	19	20	21	19	19	20	20	20	21	21	21					

かなり高い
高い
平年並
低い
かなり低い

- 晴天・高温が続く場合は、2～3日おきに水の入替を行い、ワキや表層剥離の発生を抑制しましょう。万が一ワキが発生した場合は、下の表により対策を行ってください。

表 土壌の異常還元(ワキ)の程度と対策

ワキの程度と目安	生育への影響	対 策
水田を歩くと気泡が発生する	根の活力低下	水交換
水田を歩くと盛んに気泡が発生し、臭いを感じる	根張り不良	水交換、夜間落水
水田を歩くと著しく気泡が発生し、臭いを強く感じる	根の伸長阻害、地上部黄化	夜間かん水、田干し

有効茎数が確保された水田から中干しを

- 中干しは、水管理の中でも重要な作業です。中干しすることで次のような効果が期待できます。

- ① 土壌の通気を良くし硫化水素等の有害物質を除いて根の老化を防ぎ、活力を維持する。
- ② 窒素の吸収を抑え、無効分げつを抑制する。
- ③ 加里の吸収が多くなり、イネの組織が強くなる。
- ④ 土壌が硬くなることにより、倒れにくくなる。

- 中干しは、有効な分げつが確保された出穂前40日～30日に実施します。中干しの程度は、田面にやっと足跡が付く位か、2～3mmくらいの小さなヒビが入るくらいで5～7日程度を目安にします。



中干し終了後の田面の目安



農作業事故・熱中症に注意しましょう！



夏は、水管理のほか、畦畔の除草や病虫害防除などの作業が中心となります。特に除草作業で草刈り機を使用する場合は、事前に機械の点検、危険個所のチェック等を行い、作業時は細心の注意をしてください。

熱中症予防のため、気温が低い朝から午前中にかけて作業を行い、水分補給を忘れずに。

中干し終了後は、間断かん水に切り替え

■ 中干し後の水管理

中干し終了直後に湛水すると根腐れを起こしやすく登熟不良や早期枯れあがりにつながります。

中干し終了後は走り水で飽水管理(足跡に水がにじみ出る程度)した後、徐々に間断かん水(2日湛水、2日落水)に切り替え、根の活力維持に努めましょう。

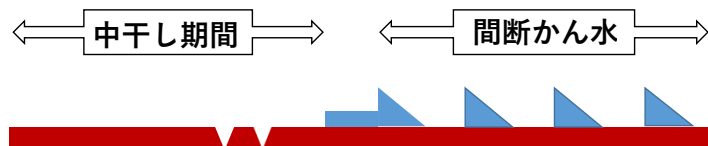


図 中干し後の水管理のイメージ

梅雨時は適切な病虫害防除の徹底を

■ いもち病(葉いもち)

いもち病は、発生してからでは抑えることが難しい病気です。田植から1ヶ月経過する田では、育苗時の農薬の薬効がなくなっていますので、この時期の予防散布を徹底することが防除のカギとなります。

NOSAIでは6月10日から富士支所、13日から北部支所で、いもち病の一斉防除を行っています。皆さんも次の点に注意してください。

- ① 置き苗は、いもち病の発生源となるので速やかに処分する。
- ② NOSAIの一斉防除を申し込みされずご自身で防除する方で、特に育苗箱への薬剤処理をしていない方は、早急に本田への予防散布を行う。
- ③ 粒剤やジャンボ剤を使用する場合、水深3cm以上を保ち、散布後は少なくとも3～4日間は湛水状態を保つこと。また、散布後7日間は、落水・かけ流しはさける。
- ④ 万が一、葉いもちが認められた場合は、早急にブラシンなどの治療効果のある薬剤を散布する。



葉いもちの病斑

■ 斑点米カメムシ

近年、温暖化に伴いカメムシ類の被害が多くなっており、特に今年は多発が予想されます。カメムシは籾を吸汁して斑点米を発生させますが、寄生数が多いと不稔になり、ほとんど収穫できない場合がありますので、次により防除してください。

- ① 畦畔や水田周辺のイネ科雑草から出穂期に本田に飛来すること、また水田内のヒエやホタルイの穂がカメムシの誘因源、発生源になることから、出穂10日前までに畦畔等の草刈り、水田内を除草する。
- ② 本田への発生が認められた場合は、殺虫剤を穂揃期と乳熟初期(穂揃期7～10日後)の2回散布する。
- ③ 粒剤を使用する場合は出穂期～出穂7日後までとし、湛水状態(水深3cm程度)で田面に均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水・かけ流しはさける。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

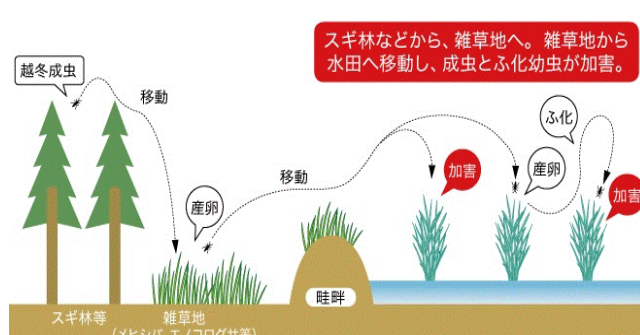


図 斑点米カメムシの生態



NOSAI山梨 山梨県農業共済組合 <https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所 TEL:0553-22-5056
■南アルプス支所 TEL:055-282-0443
■本所 TEL:055-228-4711

■北部支所 TEL:0551-23-1111
■富士支所 TEL:0554-45-6611